

「鳥居・井上基金」助成実施報告 (TIE-05)

氏名：深井 稜汰

(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所)

課題：52nd Lunar and Planetary Science Conference での研究発表

期間：2021年 3月15日-19日

このたび採択して頂いた鳥居・井上基金にて、52nd Lunar and Planetary Science Conference(以下、LPSC)の参加費を助成して頂きました。昨年度の本学会は、COVID-19の影響により直前で開催の中止がアナウンスされました。現在に続くパンデミックの影響がはっきりと現れた最初期の出来事であり、非常に印象的でした。本年度の学会は2年ぶりにオンラインで開催されました。私はポスターセッションにおいて、「The Evolutional Model of Chromium Isotopic Heterogeneities in the Protoplanetary Disk」というタイトルで発表を致しました。

ポスターセッションは e-poster 形式によって行われ、書き込まれた質問・コメントに随時リプライをしていくという、「非同期型」にて行なわれました。本発表内容は理論的側面が強く、私にとってはハードルが高いものでしたが、このようなシステムのおかげもあり落ち着いて有意義な議論を行うことが出来ました。

全体としては、探査ミッションの進展が次々と発表され、盛り上がりを見せていました。私も共著者として関わった Yada et al.の発表では、はやぶさ2が持ち帰ったリュウグウ試料の速報が発表されました。NASA のチームからは OSIRIS-REx の進展・月サンプルリターン計画・火星サンプルリターン計画など次々と大型ミッションの発表がありました。

他にも、学会開催の時間帯が印象に残っています。セッションは深夜1時から5時までという、日本からは非常に参加しづらい時間帯で行なわれました。口頭発表には多くの日本人研究者が参加していましたが、深夜にもかかわらず研究室等から発表される先生方の姿が見られました。

この度は、オンライン参加という異例の形での助成を快く受け入れて頂き、誠にありがとうございました。数ヶ月後には次の LPSC が開催される予定となっています。どのような形での参加になるかはわかりませんが、また世界中の研究者が集まる機会を強く待ち望んでおります。

以上